

## 補聴器って恥ずかしいの？～補聴器のイメージって？～

とある休日、テレビを見ていると有名な芸能人が話していた会話がとても印象に残って考えさせられた話がありました。

その芸能人(以下 U さんとします)はもともと右耳が難聴で、左耳はよく聞こえていたためそのままにしていたそうです。

しかし、ある時中耳炎になって鼓膜が破れてしまったそうです。

今まで以上に聞こえなくなった U さんは病院へ通院することにしました。医師から「補聴器つけませんか？」と勧められたけれど U さんは、「いや、補聴器はちょっと…」とためらいました。

ためらう様子を見て医師は、「U さん普段メガネかけていますよね？」「メガネは平気なのに、補聴器はダメなんですか？」と問いかけてきました。

さらに、まだ少しためらう様子の U さんに、「U さんがもし補聴器をつけたら、同じ境遇の方たちの希望の星になります。」と言われ、U さんは気持ちがほぐれたのだとか。こうして、去年から補聴器を両耳につけるようになったそうです。

すると、テレビの収録や普段の生活で聞こえづらかった声も解消され、「とてもハッピーになりました！」と満足そうに笑っていました。

「メガネは平気でどうして補聴器はダメなんですか？」

この医師の言葉に私は「あぁ、本当だ…これこそ、“恥ずかしい”とか、補聴器イコール障がい者…という思い込みや決めつけからくる偏見だなぁ…」と考えさせられました。

メガネと補聴器では、なぜ受け取り方や見方が違うのか…。

マイノリティ(少数者)、マジョリティ(多数者)の受け取り方の違いがあるのかな…？

U さんは、「弱いところがあれば補えばいいんだ！補聴器のおかげで人生変わった！」とその番組の中で語っていました。人間同士もお互いにそうする事が出来たら、それが当たり前な世の中になり、障がい者に対する態度や、対応が良いように変わったり、偏見も少なくなるのにな…なんて思いました。

この U さんの話はネットでも広がって話題になっています。この番組を見た方も多いのではないのでしょうか？

これをきっかけに、耳に障がいを抱えている人や、今まさに補聴器をためらっている方の希望の星がたくさん増えて、世の中のみんなの考え方も変わっていくといいのにな…と思った休日でありました。

P.N ねえさん